



特集 「日本橋と相撲」



「勸進大相撲興行之図」(国立国会図書館デジタルコレクション)
(<https://dl.ndl.go.jp/pid/1313340/1/2>) を加工して作成

(撮影: 日本橋図書館)

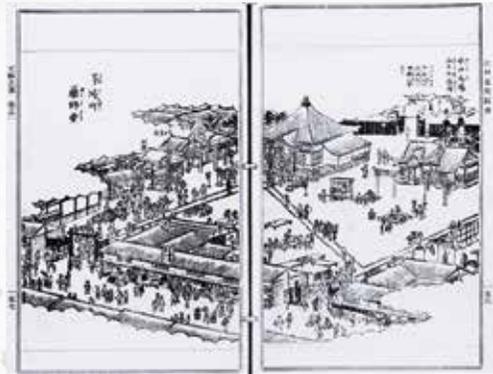
令和7年(2025)は、日本相撲協会が設立して100周年になります。
相撲といえば両国が挙げられますが、日本橋浜町にも中央区唯一の相撲部屋である荒汐部屋があります。そこで今回は、特集「日本橋と相撲」と題して日本橋と相撲に関する歴史と、日本橋地域の相撲部屋として荒汐部屋についてご紹介をします。

日本橋と相撲の歴史

相撲と言えば、国技館のある両国が有名ですが、日本橋も相撲とのゆかりが深いことをご存じですか？



勸進相撲が行われた日本橋日枝神社



江戸時代の日本橋日枝神社

出典：「江戸名所図会1」（国立国会図書館デジタルコレクション）
(<https://dl.ndl.go.jp/pid/964491/1/86>)

勸進相撲の様子を描いた錦絵 出典：「勸進大相撲土俵入之図」（国立国会図書館デジタルコレクション）(<https://dl.ndl.go.jp/pid/1313341/1/3>)

江戸時代の相撲は、主に“勸進相撲”として開かれていました。勸進相撲とは、寺院・神社などの建立や修繕のために寄付を募る目的で相撲を見せる興行のことです。しかし徐々に本来の意味は薄れ、興行理由は営利的なものへと変化していきました。

勸進相撲の江戸興行は幕府によりたびたび禁止されましたが、貞享元年（1684）にようやく許可されると、18世紀後半には武士から庶民まで大きな人気を博しました。

江戸では年に二度、晴天の8日間（後に10日間）に寺社の境内で開催されました。深川八幡（現・富岡八幡宮）や本所回向院（現・回向院）での興行が有名ですが、茅場町薬師（現・日本橋日枝神社）の境内でも、しばしば勸進相撲が行われていました。



日本橋出身の大関！

ひたちいわ えいたろう
常陸岩 英太郎



現在の日本橋蛸殻町出身の力士・常陸岩英太郎（本名 櫻井英太郎）は、身長173cm・115kgの体格で、体重を利した鋭い寄りと大きな腹を使っての吊りを得意とした人気大関でした。

明治33年（1900）3月9日、常陸岩は日本橋区蛸殻町の天ぶら屋の息子として生まれました。出羽ノ海部屋に入門し、大正6年（1917）1月場所では常陸岩の四股名で初土俵を踏みます。

大正11年（1922）5月場所で十両に昇進すると、大正12年（1923）1月場所では十両優勝を果たし、5月に入幕しました。昭和2年（1927）5月に大関へと昇進すると、昭和3年（1928）1月場所で初優勝を飾ります。一時は江戸っ子横綱の誕生かと期待されましたが、その後体調を崩して、昭和6年（1931）3月場所限りで引退しました。幕内在位は25場所でした。

引退後は年寄・境川を襲名して後進の指導にあたったほか、棧敷部長や木戸部長を務め、新聞や雑誌の相撲評を執筆しました。

昭和32年（1957）7月21日、57歳で亡くなりました。

（写真提供：公益財団法人 日本相撲協会）

開かれた相撲部屋 荒 汐 部 屋



あらしお こむすび おおゆたか
荒汐部屋は、元小結・大豊が中央区日本橋浜町に設立した中央区唯一の相撲部屋です。令和2年（2020）3月に、まえがしら そうこくらい
まえばしら そうこくらい
3月に、元前頭・蒼国来が部屋を継承しました。開かれた相撲部屋を目指して、設立から今年で23年を迎えます。

相撲部屋が中央区にやってきた!

荒汐部屋は、元小結・大豊が時津風部屋から独立、年寄「荒汐」を襲名して平成14年（2002）に開設されました。中央区に相撲部屋が開設されるのは、戦後初めてのことでした。部屋を開くにあたり、両国国技館からできるだけ近くで土俵を設置できる場所が探され、日本橋浜町にある明治座と浜町公園のすぐ近くの織物会社だった5階建てのビルに決まりました。

※荒汐…日本相撲協会の定める、親方になれる資格・年寄名跡の一つ。



稽古場は、道路に面した壁に大きな窓があり、外から稽古が見学できるように工夫されています。1階を入ると左側に土俵が設けられています。（撮影：日本橋図書館）

親方

あらしお えいきち 荒汐 栄吉 (元前頭・蒼国来)

本名エンケー・トプシン。中国内モンゴル自治区出身。最高位・前頭。平成15年（2003）に荒汐部屋に入門。平成22年（2010）1月場所で、部屋初めての関取になります。平成29年（2017）1月場所では技能賞を獲得します。令和1年（2019）に日本国籍を取得。令和2年（2020）先代・荒汐親方の退職を受け、現役を引退。先代から年寄「荒汐」を襲名して、部屋を継承しました。

注目の力士

おおなみ 大波三兄弟

令和7年（2025）1月現在、荒汐部屋の幕内力士である若元春と若隆景は、二人の兄である幕下の若隆元も加えて、本名の「大波」から「大波三兄弟」として親しまれています。福島県出身。祖父・父共に力士の相撲一家で、四股名は祖父と父の四股名と、戦国武将・毛利元就の三人の息子の名から付けられました。

令和4年（2022）3月場所に、若隆景が部屋初の関脇に昇進。さらに同場所で幕内優勝を果たします。令和5年（2023）1月場所では若元春が小結に昇進。関脇（当時）の若隆景と並んで、若花田・貴花田以来31年ぶりの兄弟同時三役になりました。これからも活躍に目が離せません。

▶情報発信と弟子たちの成長◀

荒汐部屋では、部屋開設の早い時期から、ホームページやSNSで力士たちの日常生活を公開。ホームページでは、体験入門～引退後にいたるまでの力士のキャリアについて詳しく書かれていて、他ではあまり見られない内容です。弟子一人ひとりの人生構築を視野に入れた、荒汐部屋の運営方針が感じられます。

地域とともに

地域の相撲部屋として、中央区の様々な場所で活躍されています。

右にその一部をご紹介します。

- ◇区民スポーツの日の相撲体験
：2024/10/14 月島運動場
- ◇全日本綱引きフェスティバル参加・ちゃんこ屋台
：2019/8/18 総合スポーツセンター
- ◇家庭教育講演会「相撲部屋おかみが伝えたい子育てのヒント」
：2019/2/9 中央区役所

～モルとムギの思い出～



『モルとムギ
相撲部屋の猫親方』
荒汐部屋、前田悟志／著
河出書房新社／出版
2016年

かつて荒汐部屋には、モルとムギという看板猫がいました。2匹は角界の枠を超えて愛され、書籍も数冊出版されました。残念ながら、現在はどちらも他界していますが本の中で在りし日の2匹と力士たちの日常を垣間見ることができます。

荒汐部屋親方・所属力士・行司・床山・年寄のみなさまのご紹介

3名の関取（令和7年（2025）3月時点）を含む、15名の力士、1名の行司、2名の床山が所属しています。

力士の名は初土俵順。（番付は令和7年（2025）3月場所時点。番付赤字…関取）

東十両 十枚目 大青山 だいせいざん	西序二段 四十五枚目 蒼乃駿 そうのしゅん	西三段目 五十七枚目 大賀 たいが	東前頭 筆頭 若隆景 わかたかかげ	東序二段 七十五枚目 綿谷 わたたに	東序二段 五十六枚目 飛騨野 ひだの	西前頭 筆頭 若元春 わかもとる	西幕下 二十四枚目 若隆元 わかたかもと	西序二段 八十五枚目 廣瀬 ひろせ	東幕下 六枚目 荒篤山 こうとくざん	西序二段 十二枚目 寛龍 かんりゅう	力士	荒汐 あらしお （元・前頭） 蒼国来	師匠
			東序二段 七十七枚目 霧乃華 きりのな	年寄	とこじん 床光 とこみつ	床山	しきもり 式守 かずき	行司	西三段目 二十枚目 神谷 かみたに	西幕下 五十五枚目 大凜山 だいらんざん	西幕下 三十五枚目 丹治 たんじ		
			うらかげ 浦風 （元・前頭） 敷島										

荒汐部屋の朝稽古にお邪魔しました。

撮影：日本橋図書館 2025年2月4日

荒汐部屋は、朝稽古が見学できる相撲部屋です。1月場所が終わって間もない2月頭、朝稽古を撮影させていただきました。※通常の見学は、窓の外からになります。



写真提供：荒汐部屋



【荒汐部屋】
中央区日本橋浜町2-47-2
朝稽古見学の詳しい情報は、下記ホームページで最新情報・注意事項をご確認の上、お出かけください。
<https://arashio.net>



謝辞 荒汐部屋事務局 鈴木ゆか様には、撮影・記事内容についてご協力をいただき、感謝申し上げます。

日本橋図書館に
所蔵しています。

オススメ相撲の本



『稽古場物語』

佐々木一郎／著・画 ベースボール・マガジン社／出版 2020年／出版年

2020年当時の相撲部屋44部屋の稽古場が、俯瞰図イラストと共に解説されています。見学用の窓がある部屋、台所やお風呂場が併設されている部屋…と設備は様々ですが、どの部屋も土俵を中心に設計されていることが、他の建物にはない特色で興味深く感じます。力士たちが研鑽を積む場を間取りから見ることで、新たな相撲の魅力を知るきっかけになるかもしれません。

『櫓太鼓がきこえる』

鈴村ふみ／著 集英社／出版 2021年／出版年

高校を中退した17歳の篤は、呼出見習いとして小さな相撲部屋に入門します。「呼出」とは、相撲で力士の四股名を呼び上げる人のこと。力士と違ってあまり注目されない裏方の仕事とと思っていましたが、次第に呼出の仕事にやりがいを感じていきます。普段見ることの出来ない相撲部屋の日常や裏方さんの仕事丁寧に描かれていて、若い力士や裏方さんを応援したくなる一冊です。



『スー女のみかた -相撲ってなんて面白い！-』

和田静香／著 シンコーミュージック・エンタテイメント／出版 2017年／出版年

「スー女」というのは「相撲ファンの女子」のこと。自身もスー女であるという著者が、スー女ならではの相撲の「見方」を綴る相撲愛に溢れた一冊です。本場所・巡業観戦はもちろん、アマチュア相撲を観に行ったり、自ら相撲大会に参加したり…。いわゆる好角家とはまた違う、明るく軽やかな相撲ファンの世界に触れてみませんか。

『こどもたちと楽しむ 知れば知るほどお相撲ことば』

『おすもうさん』編集部／編著 大山進、神永暁／監修

ベースボール・マガジン社／出版 2020年／出版年

“変わり身が早い”“懐が深い”“脇が甘い”など、私たちが日常で用いる言葉の中には、実は相撲に関するものが多くあります。本書は相撲に由来する言葉をはじめ、相撲だけで使われる専門用語や俗語をイラストと共に紹介しています。子どもから大人まで、言葉をきっかけに相撲に親しむことができる一冊です。



《参考文献》『荒汐部屋のすもうねこ-モルとムギと12人の力士たち-』安彦幸枝／写真 荒汐部屋／著 平凡社 2016年

『日本で力士になるということ』飯塚さき／著 ホビージャパン 2022年

『大相撲語辞典』福家聡子／著 木村銀治郎／監修 誠文堂新光社 2018年

「区のお知らせ ちゅうおう」中央区企画部広報課／編集 中央区

「特集 日本橋浜町の相撲部屋 荒汐部屋を応援したい!」『月刊日本橋』令和4年9月号 名橋「日本橋」保存会／監修 日本橋コミュニティセンター 2022年

「兄弟三役 門出の新春」『読売新聞』2023年1月6日東京朝刊23頁

「大相撲初場所 やっと初日、若元春 若貴以来の兄弟三役」『毎日新聞』2023年1月12日西部朝刊18頁

「浜町に中央区初の相撲部屋」『中央区民新聞』2002年9月30日2頁

<参考URL>

荒汐部屋「力士・行司・床山・年寄-荒汐部屋」(荒汐部屋公式ホームページ)

<<https://arashio.net/rikishi.html>> (参照日 2025-02-26)

日本橋地区の寺・神社 其の十九

肥後本妙寺別院 清正公寺せいしょうこうじ (日蓮宗)

中央区日本橋浜町二丁目59-2

清正公寺は浜町公園内にあるお寺です。熊本県にある肥後本妙寺の別院にあたります。ご本尊として十界本尊・開運勝利高祖日蓮大菩薩尊像・清正公大神祇尊像の三体が安置されています。

歴史・由来

江戸時代、現在の浜町二丁目地域は大名屋敷が建ち並ぶ武家地でした。文化3年(1806)肥後熊本藩細川家の下屋敷が当地にでき、文久元年(1861)に藩主細川斉護が、領地の肥後本妙寺に安置する加藤清正公の分霊を屋敷内に勧請し祀ったのが、清正公寺創建の由緒とされています。

明治維新の際には信徒の請願によって、一時「加藤神社」と称していましたが、明治18年(1885)には「浜町清正公堂」と改称して本山である肥後本妙寺の別院となり、寺院に戻りました。

同じころ、敷地の所有者・細川家の発願により一般の参拝が許されたことで、近隣の人々からは「清正公様」と親しまれました。縁日や祭りも行われ、縁日に向かう人々で道中がにぎわう様子が錦絵に遺されています(下図)。作家の谷崎潤一郎も子どもの頃に行ったことがあると書いた縁日は、昭和の戦前まで開かれていましたが、残念ながら戦時中に廃れてしまいました。



大正12年(1923)の関東大震災では建物が全て焼失してしまいます。震災後の復興事業で同地に浜町公園が設置されたため敷地もなくなりますが、その際、公園内になくなった敷地が提供されたことで、昭和4年(1929)の公園開園と同時に現在の地に遷座しました。その後、昭和20年(1945)の東京大空襲で再び焼失しましたが、戦後に再建されています。

『東京両国大川端風景清正大神社毎月廿四日御縁日参詣群衆之図』 写真提供：中央区立京橋図書館

《参考文献》『中央区史 下巻』東京都中央区役所／編 東京都中央区役所 1958年

『日本橋トポグラフィ事典 地誌編 旧日本橋区町名の沿革・由来』日本橋トポグラフィ事典編集委員会／編 たる出版 2007年

『浜町史 続』窪田吾郎／著 窪田吾郎 2002年

『中央区の昔を語る 5 浜町 小網町』中央区教育委員会社会教育課文化財係／編 中央区教育委員会社会教育課文化財係 1991年

『幼少時代』谷崎潤一郎／著 岩波書店 1988年

謝辞

清正公寺のご住職様には、歴史・由来等についてご協力をいただき、感謝申し上げます。

最近の行事より



クリスマス子ども会

令和6年12月22日に実施

赤ちゃん向けの回と、3歳以上のお子さん向けの回をおこないました。クリスマスの絵本を読んだり、クリスマスケーキの歌を歌ったりするなど、どちらの回も盛り上がりました。

おはなしの後には、サンタさんが登場！参加した子ども達にプレゼントとクリスマスカードを持ってきてくれました。お礼に、会場のみなさんでサンタさんへ歌のプレゼントをしました。参加された方たちが笑顔になる楽しい会となりました。



数字で見る

日本橋図書館この一年ベストリーダー

令和6年に日本橋図書館で貸し出された
一般書・児童書・視聴覚資料のベスト5をご紹介します。
(令和6年1月1日～令和6年12月31日)

一般書

順位	タイトル・作者	貸出回数
1位	クスノキの番人／東野圭吾	346回
2位	汝、星のごとく／凧良ゆう	317回
3位	成瀬は天下を取りにくい ／宮島未奈	316回
4位	白鳥とコウモリ／東野圭吾	313回
5位	透明な螺旋／東野圭吾	311回

児童書

順位	タイトル・作者	貸出回数
1位	だるまさんが／かがくいひろし	527回
2位	だるまさんの／かがくいひろし	426回
3位	がたんごとんがたんごとん ／安西水丸	399回
4位	だるまさんと／かがくいひろし	366回
5位	サンドイッチサンドイッチ ／小西英子	361回

視聴覚

順位	タイトル・アーティスト	貸出回数
1位	ANTENNA ／Mrs. GREEN APPLE	88回
2位	ハックニー・ダイヤモンドズ ／ザ・ローリング・ストーンズ	80回
2位	STRAY SHEEP／米津玄師	80回
3位	瞳へ落ちるよレコード ／あいみょん	79回
3位	LOVE ALL SERVE ALL ／藤井風	79回
4位	BADモード／宇多田ヒカル	76回
5位	Open a Door／Aimer	73回
5位	ユーミン万歳！～松任谷由実50周年 記念ベストアルバム～／松任谷由実	73回



編集後記

今回、日本橋と相撲について取り上げて、歴史的接点の多さに驚きました。荒汐部屋の朝稽古撮影では力士のみなさんの気迫の凄さに感激しました。荒汐部屋の向かいには相撲ショップ「カ山商店 YORIKIRI」さんがありますが、こちらも素敵なお店でした。これからも地域の相撲部屋として、日本橋図書館でも荒汐部屋を応援したいです。